



魅力だより



2学期も中盤に差し掛かり、運動会、体育大会、文化祭等の行事を通して「絆づくり」の取組が充実する時期を迎えました。行事では、子供が企画・参画したり、選択したりする「自己決定の場の提供（生徒指導の4つの視点③）」によって、子供の自己有用感が高まり、充実した「絆づくり」が実現することと思います。

4月から当班が推進している「魅力ある学校づくり」ですが、半年経って、県内各地で取組が広がっているようです。子供たちにとって「行きたくなる学校」の実現に向けて、先生方が意識を変えてくださっていることに敬意を表します。

10月13日（金）に、令和3年度まで国研事業の委託市であった霧島市の高千穂小学校で、「魅力ある学校づくり」をテーマとした研究公開が行われました。今回は、その内容を中心にお伝えします。

1 教科の指導と生徒指導の一体化を徹底

1回の授業に、必ず1つ以上「生徒指導の視点」を踏まえた活動を意図して取り入れる。

高千穂小学校では、日頃の授業の中で、必ず1つ以上「生徒指導の4つの視点」を踏まえた活動を意識して取り入れることを徹底しています。そのために、「これまでも既に取り入れてきた活動が、実は生徒指導を踏まえたものだったのだ。」と、整理するところから始められたそうです。

「新しく何かを始めるということではなく、これまでの取組を整理し、価値を見出し、意識する。」ここを出発点として、教科の指導と生徒指導の一体化への意識が変わります。

1年・生活科



★子供の主体的な活動が中心の授業
★事前の万全な準備と配慮が重要

5年・学級活動



お手伝い、ふれあいなど、家族が「にこにこ」(笑顔)になった家庭でのエピソードを、ワークシート、動画等、自分が選んだ方法で作成して友達に紹介、みんなで共有。「自分で選択し、自己表現する」ことを経験。(生徒指導の視点①②③)

将来、目指している職業に就くために必要なことを友達の意見も取り入れながら考え、それを可視化することで整理し、今できることに気付く。内容の保存、蓄積、ふり返りは、個人所有の手帳で工夫。(生徒指導の視点①②③④)

学習指導案(本時案)に「生徒指導の視点」を意識した活動を明記したことにより、授業者だけでなく参観者も、その視点を意識することができました。このことは、「学習者主体の授業」にもつながります。

2 「主役は子供」は基本・原点

- ① 「先生は黒子に徹する」
- ② 「主体的な活動を実現させるための準備・配慮に注力」

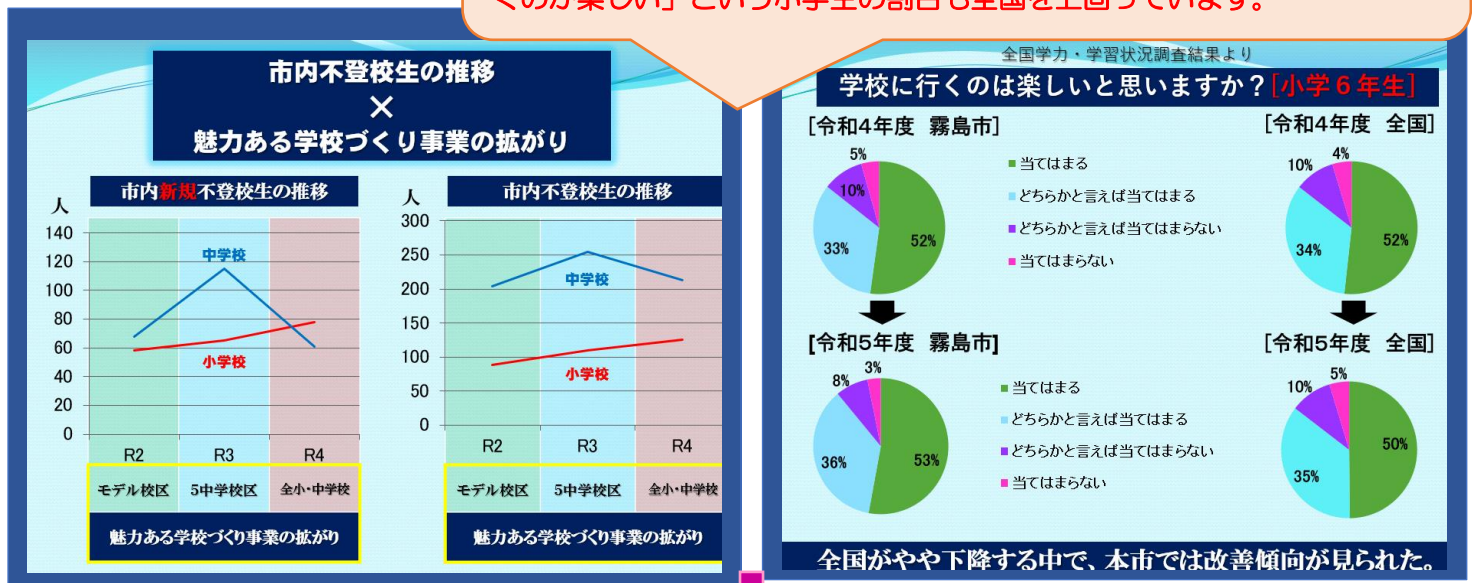
「発達支持的生徒指導」、「魅力ある学校づくり」が目指しているのは、主体的に学習や活動に取り組む子供の姿です。

あくまで、主役は子供たち。先生は黒子に徹し、主役の子供たちの学習や活動がスムーズに進むよう、教材研究や場の設定等、計画段階での準備や配慮に注力することが大切です。

高千穂小学校でもこのことを大事にしており、授業では、先生の説明や指示の時間より、子供たちのいきいきとした話合いや交流の時間が圧倒的に多く設定されていました。

3 取組の継続による成果

★令和4年度、霧島市の中学校不登校数は、新規・総数とも減少、小学校の増加は全国平均に比べ抑制されています。全国学調質問では、「学校に行くのが楽しい」という小学生の割合も全国を上回っています。



委託期間終了後も、「魅力ある学校づくり」の理念と手法が踏まえた取組を継続され、上記のような成果が上がっています。「効果は漢方薬的に出てくる」、「信じて続けることが大事」という国立教育政策研究所 高橋総括研究官のお言葉を実感し、続けることの意義、さらにこのことが標準化することの必要性を再確認しました。

4 不明な点、疑問があれば、いつでも連絡してください！

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことで、どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】高校教育課学校教育生徒指導班

振り返りその3 「主役は子供」であるために…

「子供に〇〇させる」



「子供が〇〇する」

- ◆ 教育活動の企画や立案(基本理念)
- ◆ 教師間の会話(日常的な意識)
- ◆ 教育活動や体験の事前・事中の説明

学習者中心の授業と教育活動を！

子供が自らの経験を通して、自らを主語として学んでこそ知識は根付く。

全体会指導助言プレゼン資料より抜粋
(霧島市教委作成)